

よ	紙	珠	の	か	に	氏	聴	か	エ
う	元	い	を	新	も	は	い	大	い
に	を	墓	を	割	口	英	た	声	人
兄	入	穴	深	斧	が	語	と	を	の
せ	ル	を	田	で	き	は	い	あ	妻
か	、	堀	氏	聴	け	ゴ	う	り	女
け	ミ	つ	の	天	ぬ	ツ	の	合	は
て	ツ	て	畑	を	、	デ	疑	っ	、
い	レ	埋	に	割	自	ム	ひ	た	或
た	ヲ	め	引	ら	然	以	は	後	る
か	レ	、	き	北	っ	外	豚	に	夕
の	に	郵	お	悲	か	に	飼	一	方
と	幼	便	り	鳴	サ	知	ひ	声	豚
相	う	函	入	を	合	ら	に	悲	飼
像	き	に	ん	哭	ひ	あ	懸	心	の
を	に	は	で	声	に	い	っ	痛	家
れ	出	、	数	や	あ	し	た	う	で
る	掛	前	の	て	り	、	の	叫	何
の	け	記	中	死	対	案	添	び	る
犯	た	の	に	な	午	う	田	を	

10X20

S-4

罪の動機、平素の争ひ、貪欲の独身者、盗田
 氏には盗まれた家財も衣類も口、外に敵も
 あかつたので十日の兄を所、豚飼いの所にと
 思ふのは当然であつた。彼は警察に召喚さ
 れ、同妻と水たが、知りぬ存せぬで押さ通した
 、その中に行の調査や証拠かためが出来た
 中にはパナール、バーン、事件が突発して日本
 へ来、一から立ち退き、この殺人事件もそのど
 うさ、さで暗から暗へ葬られてしまつたのであ
 る。

10X20

S-5

一九四一年十一月廿九日	農会員松本由松氏	の長男建一君家出し行衛不明とあり、今口総	出でへネーホリスの指揮の下にハキトラム方	面を捜索したか、遂に不成切に終る。	同年十月十九日の系表に依れば、日本入特	別登録を、昭和二十一年一月五、六、七の三日間にす	るためマウレテワト、ホリス出張するを以て決	定した。	会員山利市農人貴家網吉氏死亡	へネーホリスの父の義勝公債総計四千
-------------	----------	----------------------	----------------------	-------------------	---------------------	--------------------------	-----------------------	------	----------------	-------------------

10X20

T-1

八五十弗に達した。斯くして在へネ一日本
 人は新時刻令で、海軍百哩以外へ立退かされ
 る事力十々への愛護運動を続けたのであつ
 左の
 △一九二二年三月十八日、農令ホルにて時
 局座談會を開催す。最近祭布をれた総務令に
 依り、日本人は沿岸から立退くについでば、
 如何なる方法で立ち退くかの収獲期迫る海
 、財産整理、立退き期日などについて協議し
 たが、其れは政府の指令を待つ外はあかつた

語学校及び幼稚園を閉鎖し、農舎の財産は
 カストデヤンに依託す。当時、農舎幹部は、會長、廣渡井莊、合計
 露本徳太郎、幹事、堀内芳太郎三氏であつ
 た。これよりさき、四十五才迄の兵役年齢者は
 早く立退きを命ぜられ、^{東部}別部の鉄道工、パ
 ルプ伐ちどにやられ他に歸化人舎が自費移動
 し、リルエツト、テ、ラ、レ、キ、ミ、ント
 で自活し、残余は、ス、ロ、カ、ニ、エ

10x20 千

録動

往時の瘡坑所謂幽霊所に抑留生活を送るに
 一デバ、グリ、ウ、ド、サ、ト、オ、ド、
 とにふつた。一九四二年一月五、六、七の三日間農舎木
 一ルに於て、再び日本人の特別登録をオス。
 同年三月十八日の総督令の中に十八才以上

利動開始

10x20

の日本臣民は、直ちに吹市のマウレテマド、
 ホリス本部事務所に出張届出を済ませし。
 同日同年三月廿五日、ケヰマ大佐より、アル
 バタ州移勤先きの砂糖太根作り奨励の説明会
 あるに、マウレテマドの久
 藤家氏より、ホーの三谷保に通ちあり、農會
 員に通達す。
 同年四月二日、ホーの先鋒隊二十五
 家族を、マウレテマドに送る事に決定。同日、家族
 一十八名、同月十一日の特別列車で出発した。

10X20 49

野、崎山、松尾、後藤の外三家族、
 田、小田口、大里、岡野、三谷父子、郷、吉
 座、高津、井上、古賀、富田、清水一郎、藤
 穆勤、一田、川瀬、戸益、太郎、清水、小柳、有

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives
The University of British Columbia

非日記
フナ
S
S
ナ
ニ
天

△ 同年四月十八日、第二回アルバ行々十二

家族、田中、三島、佐々木、宇都宮、田村父

子、大谷、根、又子、松本、岡（宗）岡琢磨

△ 学務部会計残金全部は、農會会計神露木總長

氏に引渡す。

△ 同年五月十五日、農會員の分散由四月十一

日のマニトバ行きに始まり、第二回アルバ

州行き、第三回アルバ州行き、人必競々

たり。

五月九日には当農會の元老山家安太郎氏が

10x20
y-10

非日記コーナーSSS千二天

へスデレがバークの集散所に呼ばれ、十
四日には、殊りの一部と婦女子は知り、ウー
ドへ、男子はへスデレが、バーク集散所へ呼
び出しが来た。幹事一家と同様の通知に接し
これが最後の集合の記録である。

一九四二年五月十五日

幹事 堀内芳太郎

10x20

Y-11

附

録

一九三八年の
 農會時代の幹部
 井上 次郎氏を憶う
 コーナー
 日曜学校
 排日法

東洋人排斥協会の政治を利便して排斥を
実行し左中は
一、東洋人排斥協会の政治を利便して排斥を
二、東洋人排斥協会の政治を利便して排斥を
三、東洋人排斥協会の政治を利便して排斥を
得る。
四、東洋人排斥協会の政治を利便して排斥を
五、東洋人排斥協会の政治を利便して排斥を
別

10X20

別に法律上の制束はあつて、曰系で師範学
 校卒業生で、公立学校の教師として就職する
 るは、殆ど不可能であつた。言葉の解らぬ日
 本人患者を扱つたための病院側の必要から日本
 人看護婦を認めるやうになつたのも一九四年
 以後の事である。それまでは敬遠されてゐた。
 力加知にも勿論帰化はあり、誰でも申請
 する二とば出来たが、一九二五年頃、それ迄
 の帰化は殆ど漢鑑を受けろ左めの帰化であつ
 たやうだ。から預書は受け付けても殆ど握り潰

10X20

a2

山が、見されてから、又那人の労働者が多く
 いり、白人の雇人として働いていた
 のり、エトにも一時、那人が千人以上も居
 た。し、人口が増え、キヤリブは一つの
 選挙区にあり、代議士を選出する事になった。
 その頃の選挙資格には、人種、宗教別も
 なく、誰でもビシレ、物に三ヶ月以上居留民と
 して、二十歳以上、有する者には、土人にも又、
 人にも選挙権を与えた。その頃、日本
 人として、は、中、西、東、が、教、人の、は、白人、ボ、イ、を、在、

10x20

a-4

コリーナ・井上氏

北で金山ゆきに行つた以外には殆ど問題に
あつたが、支配人はパリ・ロンドンを中
心に二、三千人も居たらしいが、一切言語不
通でボスの言うままにある。政治家が反那人
ボスに金をつかせてとりこめば、反那人は結
束してボスの言う一人一人に投票する。一方白人
達の投票は割れるので、反那人の票を持つ者
が必然的に当選した。その間、ロバート・ス
ミズ代議士の如きは三分の一以上は反那人の
票で当選したといふ。一八七六年の選挙に於

10x20

11-5

て、この多年の積弊を除き、又那人及
 西土人の選挙権を奪った。日本人はそれから
 二十年前のたつてから一八九六年、遂にバク
 ーバの、ステイハイロの投票を拒まれ、又
 那人や土人と同列に扱はれるようになった。
 その時本間富吉氏の試訴を最後に日本人はじ
 ーエーの政治から断絶されたのを知った。世
 界第一の大義前、じーエーの排日制束の下
 に暮らしていた二万三千の日系人は戦後、土
 政策の下に東部各地に散住し、四十年の引
 引りに

10X20

この井田氏は農家の事業ではなかつたが、
井田氏へネーに権限店を属していたウイリヤ
ム・ホルといるバプテスト派の篤信家とそ
の妹のメリーさんが、五、六日曜学校を開いて
はと山家氏に相談があつた。山家氏も常に真
の同化は宗教的一致が一番大切な道と信じてい
たので、日曜白の家庭を訪問して、十五、六名
の日曜白児童を確保して一九一七年四月から日
本人クラブ無宗教の日曜学校を始めたと木

10x20

C-1

八十名、大人の礼拝出席者も二十名程あつた。
 日、白粥ど半々で一、九二〇年頃の平均出席者
 の通算おと十数年写経けた。この日曜学校は
 系、シヤニタ、系生徒、教師、青年達への聖書
 から誰彼れとあゝ来て貰つた。山家氏は合計
 人の日曜礼拝も午後八時から持ち、牧師は映市
 で兄弟姉妹四人がホ、ホ、ル氏の後を継いだ。大
 りえた。ホ、ホ、ル氏は翌年他へ移轉し、ハ、ハ、ト
 が、合計系、シヤニタ、として開校し生徒も段々
 一、ル氏が校長、メリ、嬢がオルガニスト、山家氏

10X20

C-2

この日曜学校の年中行事即ち、イースター
 、感謝祭、クリスマスなどには、白人児童の
 款達が集り互ひに交款する。一九二八年次、
 この日曜学校主催で収獲感謝祭の晩餐会をし
 た。四千キレヤポテトは日本人農家からの寄附
 で、小極多平民がコック長と、婦人会員が手
 傅つて、四千キレヤカを作し、ケイキヤ茶、コ
 ーヒーは白人の母親達が持ちより、二百名以
 上の集まり、食後は子供中心の遊戯、歌、ゲ
 ム等に日、白人親達が打ち興じた。こうし

10x20

C-

左日、白人の舎食は即座に友を作り、互ひ
 の理解を深めるために非常に役立った。この
 日曜学校はハムトリー一家に依つて一九四二年
 日系人の立退きまで続けられた。そして廿六
 年の永い間宗教を通して日、白の親善と理解
 を増したを形の効果と児童の魂に計りつけた
 福音の種は彼等の日常に芽生へるであらう。

10X20

母産業の始祖、井上次郎氏
 佐加呂果佐加呂市赤松町五番地
 フレガバレ日本人母産業の開拓者井上氏
 が、一九〇六年に入来し、母産業を
 創めてから廿五年後、大戦勃発当時日本系農
 家がフレガバに五六戸、人口三〇六八名
 、その所有及別八、〇六英加に発展した跡を
 離す、そのうちに故人の民族的偉大なる行績が
 一棺をおさるて定まる一の感を深くする。彼
 れが自ら陳謝に立ちて農業を奨励した謂以は

一般労働市場に於ては、日本人がとかく排斥
の對照と云ふ患へ、排斥なき農村に民族の進
路を開かんといふ。金助、鉄を執つたの如くあつた。
そして彼れの農者指導方針は、平寧農會會則
に名記してあるように「在留支那風」に同化し
、曰、日蘭係の改良を計る。即ち曰、白社会
連帶主義であつた。一九一四年第一世界大戦
の勃發するや、井上夫人を長とする日中婦人
會は、赤十字援會を作り、赤十字用品を調
成し、白婦人會の庇護とあり、バカに協力す

10X20
3-2

るおと目醒まし活動や、男子側も村収の
玉運動に参加するおと村収の行方にも協力し
たるは井上氏の指導によるものであつた。こ
れ一モロ一主眼に表示された。うに他の日
本人団体に附和雷同することなく、どこまで
中へ入れば独自の指導方針で進んだのを知
た。井上氏自身は宗教には関心を持たなかつ
たが、宗教運動には應援心を惜まぬ、死の床の
遺言にも、自分の葬式は子女のため、キリス
ト教を信じて貰いたいといふ言はれた。その
頃、その頃

10X20
1-3

定着農夫として、或は字英花嫁としての所来
の五月廿四日女に英語習得の緊要なことを説き、
夜学を起し夜学に出す事も、月謝支払ひも皆
産主の義務としたこと、あらゆる方法で勉学
を奨励した。一九三一年十月六日、氏がその
創業の地に骨を埋めた後も、氏の指導方針は
最後まで守られた。あつた。

氏は明治三年、佐加次鍋島藩士、井上三郎義明
の二男として生れ、早稲田大学法科をうへ、
日清戦争後、山口商の口は山電氣會社支配人、米

10x20

7-5

明能川

穀取引所理り、出欠鉱業、九州日報記者等を経
て、明治三十年の暮、上米桑港に上陸し世界
の米台を踏うにかけ、ベルギーに入り硝子製法
を習はんとし、て目的を果さず、再び米大陸に
渡り、當時エヤトルの成功、~~農業~~家古彦政次郎
氏の難問とあり、力加に轉じて同胞業者
の卒分けとあり、遂に骨をその地に埋めた。
明治三十一、紅系散る十月六日、享年六十
一才、へ不^レを平寧と漢字をあてたのも井上
氏が彼れの平和で寧ろ農村生活を理想とした
ことが憶はれる

10x20

J-6

八木一農會日一替代の幹部

年代	会長	副会長	幹事	会計	
一九一九	井上次郎	日高禎藏	高津俊輔	中山要太郎	
二〇	全	中山要太郎	岡四郎	高津俊輔	
二一	矢野誠治	全	全	田村弥左門	
二二	全	小堀与平	全	全	
二三	全	全	全	全	
二四	全	吉野倉八	日高禎藏	全	議長
二五	中山要太郎	高津俊輔	広渡重正	神崎与次	矢野誠治
二六	岡四郎	難波豊登	全	全	吉野倉八
二七	吉加尺四郎	吉野倉八	広渡重正	有座田次	岡四郎

10X20

1

一三八	全	市渡 甲在	米山力藏	伊藤 愛之助	三谷 修二 郎
一九	全	難波 豊次郎	全	多田 盛得	延 藤 一 太
一〇	難波 豊次郎	市渡 甲在	土屋 一 逸	有座 田次	全
三一	全	全	全	全	全
三二	市渡 甲在	田中 惣七	全	全	古加 良四 郎
三三	岡 四 郎	矢野 靜夫	北川 結一 郎	武田 宗次 郎	吉野 倉八
三四	難波 豊次郎	米山 力藏	全	全	磯島 重次 郎
三五	土屋 一 逸	全	全	全	全
三六	古加 良四 郎	神箭 多吉次	梶浦 万亀次	西元 春	立石 角太 郎
三七	全	梶浦 万亀次	料治 一 太	西元 春	三谷 修二 郎

10X20

一三八	榎浦万亀治	神崎秀兵治	全	全	全
一三九	全	米山力藏	全	北川信一郎	磯島勇次郎
一四〇	岡久四郎	廣渡重莊	小塚安太郎	西路木徳太郎	古津俊輔
一四一	広田重壯	米山力藏	堀内芳太郎	全	全

10X20